

第9 1回千葉県森林審議会概要（令和3年度）

1 日 時 令和3年12月17日（金）午前10時5分から正午まで

2 場 所 千葉県自治会館9階 大会議室

3 出席者 【審議会委員】※敬称略

青山 定敬、鎌田 直人、川北 紀子、志賀 和人、
泉水 秀昭、高橋 輝昌、橘 隆一、田淵 和正、
中村 令子、松浦 裕子、武藤 敏雄

【県職員】

農林水産部次長 川島 智、森林課長 堀口 正昭、
副課長兼森林政策室長 佐藤 哲也、※以下敬称略
村井 和之、出口 博規、椎名 康一、
宇川 裕一、福田 彰、鈴木 明、千葉 浩克、
小林 真生子、町田 優衣、渋谷 大介、色川 拓実

4 議 題 (1) 審議事項

ア 千葉北部地域森林計画の変更について（諮問）

イ 千葉南部地域森林計画の変更について（諮問）

(2) 報告事項

ア 千葉県農林水産業振興計画（案）について

イ 第5次千葉県里山基本計画（案）について

ウ 森林保全部会の開催状況について

5 議事概要 (1) 答申

千葉北部地域森林計画の変更計画（案）及び千葉南部地域森林計画の変更計画（案）については妥当である旨の答申を行うことが了承された。

(2) 主な質疑・意見

○地域森林計画について

・現場で感じる大きな問題の一つである担い手の不足により、突発的な出来事に対応できないことに苦慮している。今回もコロナ禍でウッドショックが発生しているが、木材が高く売れる中で、生産量を増やすことが出来ない。

・もう一点の課題としては、主伐が進み、造林地が増えていく中で、下刈り等の作業負担が増大しており、伐って植えて育ててまた伐って売る、という循環を成立させるのが非常に難しい。

○千葉県農林業振興計画について

- ・千葉県は森林部門は、農業や水産業に比べると、どうしても産業的側面が弱いので、別の切り口でアピールポイントを育てていけたら良いのではと考えるが、いかがか。

【事務局回答】

- ・今回2つ掲げた目標の中で、上位の目標ともう少し具体的な下位の目標も仕込んでいこうと考えている。上位目標としては森林整備と木材生産だが、下位の具体的な目標としては、里山活動の取組み関係の指標など千葉県としての魅力を延ばせる部分として具体的な目標を今策定しているところ。

○第5次里山基本計画について

- ・今、コロナ禍で在宅勤務など仕事の在り方が変わってきている等のプラスの側面もある。県内、県外、あるいはコロナ禍後も見据えて海外からも人を呼び込むといった、千葉県全体をどのように盛り上げていくか、広い視野を持った発想で里山に人を呼び込むのが良いのではないか。
- ・房総半島台風の被害について、あれほどの規模の台風であったにも関わらず、維持されている森林がある。どうしてもマイナスイメージで語られがちだが、逆手に捉えるとイメージが変わるのではないか。

【事務局回答】

- ・千葉県には地理的にも色々な条件が整っている。農林水産業を振興していく中で、担い手をどう確保していくか、というのは大きな視点。今農業では「半農半X」、水産業でも同様な視点で担い手確保を考えている。森林でも専業だけではなく、多様な方々の参画をいただいて、やっていこうというところ。いただいた意見を踏まえて考えていきたい。
- ・マイナスイメージの改善についても、前向きに考えていきたい。

○その他

- ・大規模皆伐というのは、どの程度のものを大規模と定義しているか。
- ・千葉県では、それほど大規模の皆伐が行われることは少ないと考えているが、認識に相違ないか。

【事務局回答】

- ・国で具体的に定義を定めているわけではないが、国の通知によると、「およそ5ヘクタール以上のまとまった伐採で、伐採後の植栽方法が天然更新であるとされる場合には、その箇所を市町村が現地調査して、天然更新ではなく植栽をしてください、と指導すること」と示されている。そのため、5ヘクタールを一つの目安とし、その他にも天然更新が難しいと思

われる場所には植栽による指導を進めていくよう対応していきたい。

- 千葉県では、森林一筆の面積が約 2000 m²程度と小規模であり、集約化が難しいという課題がある。そのため、現状では 5ヘクタール以上の大規模皆伐というのはほとんどない。
- 補足として、林地開発の場合、都市計画等と異なり、森林の中で開発を推進する区域等を設定しているわけではないため、事業者都合で大規模開発の申請が行われる。